



故郷の空 No.23

ボクは故郷にある画廊で、三年に一度きりがみの原画展を開いている。その三回目のもと、東京の自宅に、一通のうれしい手紙が届いた。小学校上級生の時の先生からで、そこには展覧会の感想に続いて、今までの個展も全部観ていると書かれていた。当時男子生徒あこがれで、子どもながらに胸がときめいた女の先生だったので、感慨はひとしおだった。

最近、そのことをエッセイに書いて雑誌に掲載し、先生にもお送りした。長い教職の一断片で、たぶんもう憶えてはおられないと思っていたのだが、先生は、その頃のことをしっかり憶えておられた。しかも、その記憶は、今取り出してきたように正確で鮮明なのが、頂いた手紙の内容で分かった。

小学校の校舎も新しく建て代わり、当時を偲ぶものはほとんどなくなってしまったが、四十年近くの時間が経っても、色あせないものがあることに驚いた。もしかしたら、これは小学校の時に埋めておいた、記憶のタイムカプセルだったのかもしれない。

(彫刻家)

むらかみ・たもつ モダンアート協会会員。一九五〇年、大洲市生まれ。東京都杉並区在住。東京学芸大学卒。モダンアート展(新人賞、部門賞、協会賞)、文化庁現代美術選抜展、新潟市野外彫刻大賞展。K A J I M A 彫刻コンクール作品展(銀賞)。個展ほか。山形・蔵王高原、三重県・尾鷲市、東京・神田などに彫刻作品設置。文化庁から派遣され一年間英国・ロンドンに留学。

タイムカプセル

村上 保

Tamotsu Murakami